

# 市民力でつくる貢献型社会

平成22年度施政方針から

## 市政運営の所信

## 当初予算の概要

### 次世代の明日へと繋げる 「ふるさと三豊」づくり

地方自治は今、変革の時代に突入しています。国や県に依存し期待する時代は終わりを告げ、私たち一人ひとりの意志と責任による新しい時代づくりが始まるつとめています。平成22年度は、三豊市にとつても、重要な変革の機会であると捉えています。

確かに地方経済は疲弊し、閉塞感に包まれておりますが、このいつ時こそ、積極的に新しい人脈、新しい技術、新しいマーケットを求めて、次世代の明日へと繋げる「ふるさと三豊」づくりに最善を尽くさなければなりません。

今回の選挙で、前線を任された市議会の皆様や私は、改めて三豊市民に忠誠を誓い、覚悟をもって、既成概念にとらわれず、新しい時代づくりに挑戦しなければなりません。そして、役割の終わつたもの、硬直化しているものは、勇気を持って大胆に廃止することも考えなければなりません。若者にツケを残す先送りや無責任な行為は許されるはずもなく、批判のみ受ける厳しい仕事ですが、終着駅をつくる努力も怠つてはなりません。

未曾有の経済危機に対し、臨時交付金などによる緊急経済危機対策が実施され、また、新政権の主要施策として、「子ども手当支給事業」などの事業が開始されており、新総合計画の財政見通しに対して、短期的には財政規模が膨張しています。

しかし、臨時交付金による緊急経済危機対策事業は、原則、新総合計画に盛り込んだ事業の前倒しで取り組んでおり、財政運用は、財政規律を意識して、計画性を失うことなく慎重に対応します。

このような方針の下に編成した平成22年度一般会計当初予算は、歳入歳出268億円。以下、新総合計画に示す6つの基本目標ごとに、概要を説明します。

### 活 気にあふれ、産業が躍動するまち

● 農業振興基金、水産振興基金をもとに生産振興に繋げる

● 笠田高校の有機肥料農産物のブランド化、野菜ジュースなどの研究をサポート



農地の荒廃化対策

● 市内幼稚園20園すべてにおいて預かり保育の継続実施

● 地域の学習素材を活かし、特色ある公民館活動の実施

● 豊中庁舎跡地整備事業として進める「市民交流センター」の整備

● 文化協会や文化財保護協会の活動、体協など各種スポーツ行事等の支援

● 「太平洋戦争と三豊」について貴重な証言等の資料化の検討

● 青少年健全育成のため、相談事業や環境浄化活動、不審者対策の継続実施

● 宝山湖公園の安定的な管理運営体制の確立

### と もに考え行動する自らが創るまち

● 事業の外部評価制度に本格的に取り組み、行政体質を改善

● 全国にたくさんいる三豊市出身の皆さん、とりわけ関西、関東との交流を図り、「三豊ふるさと会」を整備

● 三豊市物産の新しいマーケット開拓のため、また、イターンUターンの促進のためのネットワークを拡大し、内外からの三豊市サポート体制づくり

● ありとあらゆる機会を利用し、三豊市の知名度の拡大に努める

● 市民が自由に参加できる、「市民対話集会」を開催

● 自治会館の建設補助制度を創設

● 無線放送などで年4回「広報紙で年2回をめどに、市長報告を行う」



中小企業振興事業を強化

● 農産物、水産物および各種加工品について、インターネットを活用した新しいマーケットづくりの研究

● 農地の荒廃化対策の一環として農業への企業参入を検討

● 平成22年度に認定を受けるようバイオマスタウン事業に取り組み。多様なバイオマスを繊維化、プラスチック化、固形燃料化、堆肥・飼料化するなどの事業化に向け、企業、大学との連携による研究・検討

● 地元中小企業振興基金を活用した中小企業振興、「香川高専仲間とのさらなる連携強化」、「三豊市ものづくり大賞」やマッチング事業、経営相談業務

● 商業振興のため、商品券の利用拡大

● 施設の抜本改修を行った仁尾マリイナの機能を最大限に活用。三豊市が発起人の一人となり、環瀬戸内圏域でマリイナなどを持つ自治体に呼びかけて、新しい自治体レベルの東西南北の経済交流を起こすべく、「瀬戸内クルージングサミット」の開催を進める

● 観光振興のため、観光協会の活動支援

● 文化協会や文化財保護協会と協力して、三豊市の歴史文化を一点集中で発信

### あらゆる可能性に 挑戦する4年間に

古い中国に、人生を冬、春、夏、秋の4つに分けて考える思想があります。シンボルアニマルはそれぞれ亀、龍、孔雀、虎で、今日では、玄武、青龍、朱雀、白虎として知られているものです。合併以来4年間、三豊市は玄武の時代、つまり、暗い土の中で力を養い、春を待つ時代でした。今後の4年間は、失敗を恐れず未来に旺盛に立ち向かう青龍の時代の到来だと考えます。

過ぎ去りし日々を懐かしむことなく、行く手は遠く険しくとも、目標を見定め、夢の実現に向かって一歩前に進み、自分たち以上に次世代のためを意識して、あらゆる可能性に挑戦を試みる時代です。

住んで良かった、住んでみたいと思える三豊市は一人ひとりが尊重され、自立心とやさしさに満ちた三豊市であり、みんなで支えあう「地域貢献型社会・三豊市」だと思えます。

やさしさに包まれ、みんなが幸せを感じるこのことができる、ふるさと三豊市づくりのため、市民の皆様と共に力を合わせ、全力を尽くして取り組みます。市民の皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。

する。平成22年度は、「平城京と三豊」と、荘内半島箱崎の沖に海援隊のいろは丸が沈没し眠っていることから、「坂本龍馬と三豊」をテーマに発信

### 豊 かな自然と共生し、環境にやさしいまち

● ごみ処理技術検討委員会の答申を踏まえ、処理方式や施設の規模、配置などについて、民間技術の可能性の検討、場所の問題等を勘案しながら、市議会や広域と議論を重ねて柔軟に検討

● 住宅用太陽光発電システム設置補助事業や浄化槽の普及推進

● 新火葬場の整備に関する検討

● 平成23年度の完成に向け、防災行政無線方式による情報伝達システムの整備

● 開業から3年目を迎えるコミュニティバス運行事業は、すべての路線で維持基準をクリアして運行中。今後とも、市民の足として定着するよう取り組む

● 安定的な給水体制の整備・維持

### 人 々が助け合つ、安全・安心なまち

● 消防団組織の再編計画に基づき、地域の実情に即した能力の高い体制に順次移行

● 中学生・高校生も参加する幅広い年代層による市民総ぐるみの自主防災組織体制の検討

● 交通安全施設の整備、街頭指導

● グリーンパトロール隊など、市民参加による積極的な活動に加えて、防犯意識の普及や警察機関との連携強化

### 人 々が支えあい、健康でいきいきと暮らせるまち

● 子育てホームヘルパーを設置し、出産後間もない母子の育児支援の実施

● 放課後児童クラブの補助ボランティアとして、地元と連携し、官・学・民が一体となった活動を行うためのパイロット事業を実施



子育て支援はまちづくりの大きな柱

● 中学校卒業までの医療費を無料化

● 遺児年金制度の見直し、拡充

● 各種市長杯のさらなる充実

● 先手の福祉事業の充実と、社会福祉協議会を中心に高齢者を地域全体で支えるネットワーク整備事業

### 豊 かな心を育み文化を発信するまち

● 学校耐震化事業の早期完了に向けて事業を継続

● 三野保育所の施設整備（用地取得・土地造成）